

有機の里づくり ～自治体のみどり戦略～

【オーガニックビレッジの取組】

大分県内でも有機農業に地域ぐるみで取り組む産地の創出が進んでおり、臼杵市、佐伯市及び豊後高田市がオーガニックビレッジ宣言をしています。

それらのうち、今回は臼杵市を訪問取材した内容を紹介します。

【地域資源を使った土づくり】

有機農業において大切な土づくりを進める上で、市が運営する土づくりセンターでの良質な堆肥づくりが重要な役割を果たしています。

ここで生産される堆肥は、市内で刈り取られた草や剪定枝などの草木類8割、豚ふん2割の配合により、発酵4か月、熟成2か月をかけて完熟させ、「うすき夢堆肥」として農家などに販売されています。

【地域認証制度の導入】

「うすき夢堆肥」などの完熟たい肥で土づくりを行い、化学肥料や化学農薬を使わないほ場で生産された農産物を「ほんまもん農産物」として市長が認証しています。

「ほんまもん農産物」には、市独自の認証シールが貼られ、令和6年3月現在、市内49戸の農家が生産・出荷しています。

【学校給食でも活躍】

「ほんまもん農産物」は、市内の学校給食にも供給されており、令和5年度に市の給食センターに供給された野菜は、全供給量の約24%にのぼります。

市内のこども園や保育園の給食においても積極的な使用がみられるほか、園児が実際に畑に出向いて野菜の収穫体験を行うなど、食育の実践にも貢献しています。

さらに市では、有機栽培されたじゃがいも、たまねぎ、にんじんを主要3品目と定め、保冷保存実証を進めるとともに、近年では有機栽培米の栽培実証も行っており、給食での利用拡大を進めています。



令和5年4月11日

臼杵市長 伊藤 五郎

【オーガニックビレッジ宣言】



〔完熟堆肥「うすき夢堆肥」〕



〔臼杵市土づくりセンター〕



〔ほんまもん農産物〕



〔有機栽培米の栽培実証〕



〔認証シール〕



〔保冷保存実証庫〕